



I 目指す学校

人権を尊重した教育のもと、生徒一人一人のライフステージを見通し、自立と社会参加に必要な確かな学びを実現する学校を目指す。

- 1 生徒の夢や希望をかなえる学校。
- 2 生徒が地域の中で自信とやりがい、誇りをもてる学校。
- 3 普通科、職能開発科、八丈分教室の連携・相乗効果による、特色のある学校。
- 4 保護者、地域、社会からの期待や要望に応える学校。
- 5 教職員が教育公務員としての自覚と誇りをもって、より良いライフキャリアを実現する学校。

【教育目標】

生徒が、「豊かな社会生活を送る姿勢や知識を身に付けること」を目標とする。

【目指す生徒像】

- 1 目標に向かって挑戦し、最後までやり遂げる人 / 自ら考える力、学ぶ意欲を育てる
- 2 みんなに優しく、個性あふれる人 / 豊かな感性と、自分を表現する力を育てる。
- 3 多様性を認め、人に優しく、柔軟性のある人 / 仲間を思いやり、ともに活動する力を育てる。
- 4 社会人、生活者として人生を輝かせる人 / 基本的な生活習慣を養い、健康で豊かな心と身体をつくる。

【校訓「飛躍・敬愛・誠実」】

「自らの可能性を追求する姿勢をもち挑戦すること、他者を認め尊敬や感謝の心で共感すること、誠実さによって周囲との信頼関係を築いていくこと」を大切にする。

II 中期的目標と方策

3年以上に渡って様々な活動に支障をきたした制限が無くなった今、その間に飛躍的に進んだICT・DXによる学校を含めた社会の変化や生活環境の変化に対応した、新たな学びの創出が求められている。一方で、学校現場も他の業種同様に人手（教員）不足の深刻さは増しており、更なる働き方改革の推進に迫られている。このような状況に対応し、加速度的に変化が進む社会の中で、生徒一人一人の「豊かな社会生活」につながる学びを実現して行く為に、昨年度から掲げている「優しく」を全ての取組のキーワードとして継続・徹底する。その上で、ICTの積極的な活用による「DX」の推進と、教育振興基本計画第4期（令和5年～9年）のコンセプトとして示された「ウェルビーイング」の向上を中期的目標の重点として取り組んでいく。

- 1 優しく ⇒ 心を込めて、丁寧に = 愛情 ※全ての活動の置ける取り組み姿勢。
 - ・学習指導：わかるように、伝わるように 優しく指導。
 - ・進路指導・生活指導：優しく寄り添い 課題の解決や成長に導く。
 - ・学校経営：変化の激しい時代への柔軟な対応には、その根底に優しさが必要。
- 2 ウェルビーイングの向上
 - ・生きがいや人生の意義などの将来に・わたる持続的な幸福を含む概念。この理解と目標としての定着。
 - ・個人が獲得・達成する能力や状態(獲得的要素)だけでなく、人とのつながり・関係性(協調的要素)に基づくウェルビーイングの向上を図る
- 3 DXの推進
 - ・教育活動のデジタル化と執務のデジタル化を推進する。
 - ・そのための校内環境の充実やデジタル指導力の向上を図る。
 - ・学習面では、デジタルを活用した指定事業（生成系AI、一人一台端末）の取り組みを着実に進める。

・一人一台端末を全ての教育活動で活用し、新たな学習活動の創出にチャレンジしていく。

4 専門性の向上と人材育成

- ・確実な「分かる」を目指し、「主体的に取り組む力」を育てる指導の充実・改善
- ・生徒一人一人の進路決定、卒業後社会参加と自立に向けた進路指導・生活指導の充実・改善
- ・外部専門家との連携や、内外の研究活動、指定事業等を活用した専門性の高い人材の育成
- ・職層に応じた意図的・計画的な役割を充てることで、組織的な人材育成を進めると共に、管理職候補者の発掘・育成を図る。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

1 学習指導

全ての生徒の人権を尊重し、一人一人の障害の特性等に応じた指導を重ね、生徒がもつ力を最大限に伸ばす。

- ① 卒業後の社会参加と自立に向け、知的障害高等部の各教科等の指導に関する専門性の高い教育を実施する。
- ② 一人1台端末等を活用した教育を推進する。また、デジタル社会に対応した作業学習を創造していく。
- ③ 各授業において、「学びに向かう力」を育成する場面を毎時間、意識的に適時適確に設定する。
- ④ 読書活動（読み聞かせ、調べ学習）の推進・充実と、図書館運営の改善・効率化、情報発信
- ⑤ 生成系AIやプログラミング教育（プログラミング的思考）を取り入れた学習活動の推進
- ⑥ 一人一人に応じた健康・体力の保持増進及び運動技能の向上
- ⑦ 地域から学び、地域とともに生きる学校として、生徒の地域での生活を充実させる。

（数値目標）

- ・研究授業(各教員年1回以上)

2 進路指導・キャリア教育

- ① 働くためのワークキャリア、生活するためのライフキャリア、両方を見据えたキャリア教育の充実を図る。
- ② ハローワークや世田谷区・目黒区・八丈町など連携した進路指導、および生徒及び保護者への情報提供。
- ③ 作業学習(普通科)・職業に関する専門教科(職能開発科)で働くことを学び、実習等の体験や進路相談を重ね、自分が活躍できる進路選択の実現。
- ④ 高等部3年生の生徒一人一人の希望やニーズに応えられる進路先の決定。
- ⑤ 立地を生かした進路指導で、企業就労等障害者雇用を促進する。
- ⑥ 関係機関との連携した、卒業後のアフターケアの充実と定着率の向上を図る。
- ⑦ 校内研修の充実等による教員の進路指導力、多様な進路先への対応力の向上を図る。
- ⑧ 企業等による本校の見学を通じ、DX・ICTを活用した障害者雇用の在り方や活用についての理解啓発。

（数値目標）

- ・卒業生の進路先決定(100%)

3 生活指導

- ① いじめや体罰・自死の防止等、人権と命を大切にする指導の推進（生徒の相談しやすい環境の整備・醸成）
- ② 「SNS青鳥ルール」の徹底など、デジタル社会において被害者や加害者にならないための指導を推進。
- ③ 登下校時の安全指導の徹底（スクールバス、放デイとの連携、一人通学の安全確保）。
- ④ より現実的な想定による、避難訓練や宿泊防災訓練、防災研修の充実で、危険予測・危険回避能力向上のための安全教育・防災教育を推進する。
- ⑤ 三軒茶屋校舎、八丈分教室、それぞれに応じた熱中症対策など教育環境の整備の徹底と改善・見直し。

（数値目標）

- ・生徒事故 0件（いじめ、体罰、自殺、学校管理課での遊出・行方不明、スクールバス降車忘れ事故 等）

4 特別活動

- ① 体育祭や文化祭および宿泊・校外学習等の安全・着実な実施に向けたを見直し・改善の継続。
- ② 日常的に文化・芸術に触れることができる教育環境を整え、「多文化共生社会」の理解についても促す。
- ③ 地域を考え、地域に貢献する活動を推進する。
- ④ 適正な活動計画に基づく安全・安心な部活動の充実と、各種大会等への参加の推進
 - ・生徒の人間的な成長を第一に考えた指導を行う。
 - ・意図的・計画的に「やり抜く力、働き続ける力（GRIT）」に必要な経験をさせる。
 - ・卒業後の余暇活動の充実につなげる。

(数値目標)

- ・各部活動大会参加(各年1回以上)

5 入学相談、募集・広報活動

- ① コーディネーターを中心に「2科1分教室」が連携し、組織的に対応する。
- ② 本校の教育について、必要な情報が着実に伝わるよう、紙媒体と電子、保護者と教育関係者、説明会と個別相談など多角的に広報活動を進める。
- ③ 職能開発科の入学選考に係る業務への組織的な対応と確実な実施

(数値目標)

- ・職能開発科説明会参加者(650人以上)

6 保健指導・給食

- ① メンタルヘルスケアについての研修会など教職員の理解を深めるとともに、相談機能を強化していく。
- ② 医療的ケアに適切に対応できるよう、人材確保と育成、物品購入・管理、研修等を計画的に進める。
- ③ 栄養バランスを整えた安全な給食を提供すると共に、アレルギーなど緊急時に対応するための研修を行う。
- ④ 食育、感染症予防、健康づくりなど、教育活動全体を通じて推進する。

(数値目標)

- ・生徒のメンタルヘルスケア・医療的ケア・アレルギー対応に関する研修(年5回以上)

7 学校経営

- ① 人権尊重を第一とする学校経営を推進する。
- ② 普通科・職能開発科・八丈分教室が協力しあい前進する学校組織を作る。また、教育系職員と行政系職員など多職種が一体となり、組織的な教育が推進できるよう努める。
- ③ デジタル社会に対応した学校(教育のDX)、人に優しく地球に優しい学校(SDGs)、働くために必要な経験を提供できる学校(GRIT)を創造していく。
- ④ 都立八丈高校や都立学校教育部と連携し、八丈分教室の成果を、島しょ部における特別支援教育および高校と特別支援学校のインクルーシブな取り組みとして発信する。
- ⑤ 全教職員のウェルビーイングの向上、ライフ・ワーク・バランスの充実に図り、心身の健康と指導の充実につなげる。
- ⑥ 新規採用者、若手の教職員の着実な育成を図るとともに、優しく親和性の高い明るい職場づくりを進める。
- ⑦ 教職員一人一人が地方公務員・教育公務員としての使命を全うするため、サービスの徹底を図る。
- ⑧ 都立版エリアネットワーク地区拠点校として連携する高等学校への支援の充実に図るとともに、近隣の地域や大学と連携し、教育活動の活性化を図る。また、部活動など交流活動を通じ、多様性の理解が進むよう、社会へ情報発信していく。

(数値目標)

- ・人権に関する研修(年3回以上)
- ・八丈分教室への校長訪問(年8回以上)
- ・生徒・保護者・教職員の学校への満足度平均(7/10以上)
- ・月45時間超過勤務者(月平均5名以下)
- ・大学や地域との連携(10団体以上)
- ・サービス事故(年0件)

8 学校事務

- ① 計画的で適正な予算の執行管理を行う。
- ② 各種給付金など学事を、生徒が安心して本校の教育が受けられるよう保護者と連携して行う。
- ③ 生徒が効果的で安全に学習ができるように施設・設備を整え、物品を管理する。
- ④ 校内美化や廃棄物処理等を行い、学習環境の維持・改善を図る。
- ⑤ 教職員が安心して働けるように、福利厚生や労務管理を適切に行う。

(数値目標)

- ・学校事務に関する事故(年0件)